

第26期 国立市社会教育委員の会（第14回定例会）会議要旨

令和8年6月24日（水）

〔参加者〕 小畑、寺澤、堀、横山、根岸、田代、大森、生島

〔事務局〕 中道、関

生島議長 では、1分前ぐらいですけれども、お集まりいただく方はいらっしゃいましたので、始めさせていただきたいと思います。

それでは、第26期国立市社会教育委員の会第14回の定例会を開会いたします。

本日は欠席者なしでいきたいと思います。定員数に達していますので、本日の会議を始めたいと思います。

それではまず、本日の配付資料につきまして、事務局からお願いいたします。

事務局 事務局です。資料の説明をさせていただきます。

まず、皆様から見て、右側の山の説明です。資料1が一番上にあります「委員名簿」。その次が、資料2「これまでの振り返り」となっております。資料3「ミニテニス ヒアリングまとめ」。次に資料4「子ども事業 ヒアリングについて」、資料5「子ども事業 資料」となっております。

続きまして、左の山の説明をさせていただきます。一番上が、前回の第13回の議事録となっております。続きまして、公民館だより、図書室月報、いんふおめーしょん。その下が、一般社団法人全国社会教育委員連合広報誌となっております。そして、最後に、国立市子ども長崎派遣平和事業2025報告書となっております。

資料の説明は以上となります。

生島議長 ありがとうございます。

それでは、次第に入る前に委員の構成についてお話がありますので、事務局よりお願いいたします。

事務局 事務局です。委員の構成について、皆様にお伝えしたいことがございます。

荒井壽恵委員ですが、健康上の理由により退任のお申出がありまして、退任届が出ております。非常に残念ではございますが、皆様、御承知おきいただければと思います。よろしくをお願いいたします。

つきましては、資料1の委員名簿を御覧ください。荒井委員の御退任について反映した形となっております。

説明は以上です。

生島議長 ありがとうございます。ちょっと人数が減となってしまっておりますけれども、ただこの後また入っていただくように動いておりますので、もう少々お待ちください。

それでは、次第2の、先月行いましたミニテニスヒアリングのまとめに入っていきたいと思います。

では、資料2と、資料3も御覧いただければというふうに思います。

最初に資料3のほうですけれども、前回の記録者でありました、お願いしておりました寺澤委員に作っていただいた記録になります。今日この後、少しこれを寺澤委員のほうから御報告いただきながら振り返っていくというふうにしたいと思いますが、ただちょっとその前に資料2を御覧いただければ

と思います。

といいますのは、前回まで、シルバー学習室と心遊会、それから子育て短歌入門講座と、そこからつくり上げられていた自主サークル、短歌サークルについてヒアリングをしてきたわけなんです、ヒアリングからちょっと時間がたってしまっているというようなこともありますし、あとこの2つを踏まえて、実際にじゃあこの後どんな視点が出てきていて、どんな団体にさらに加えてヒアリングが必要なのかということを検討していくたたき台として、資料2というのが、2月の第10回の定例会で確認されたものでした。

およそイメージとしては、諮問に対する答申にこういうような視点が踏まえられていくんじゃないかということで、見通しを持ちながら、今回ミニテニスであったり、次のヒアリングの2つにもなるわけですので、これから振り返りをしていくに当たっても、少しここら辺の、今回お聞きしたミニテニスのサークルがどんな点だったのか、またはここに追加できるポイントってどんなことだったのかというようなことをイメージしていただきながら振り返れると、今回の答申づくりにもつながってくるかなというふうに思っております。

ですので、そういうことも踏まえていければと思い、資料2を事前にお出しいたしました。ですので、ちょっとこんなことも頭に置きながら、資料3に基づきまして、前回の振り返りをしていきたいと思います。

よろしいでしょうか。趣旨は伝わりましたでしょうか。

それでは、資料3を御覧いただいて、前回の記録、寺澤委員だったんですけれども、寺澤委員からは、あと質問に対してどんな回答があったか、しかもお三方がどういう回答をされたかというようなことを本当に丁寧に記録をさせていただいております。寺澤委員のほうから、全部をフォローするというよりは、簡易的にというか、注目するポイントあたりを、ここで共有するためのポイントとして御報告いただければと思います。

皆さん方も基本的には一緒に参加されていまして、この後、資料2であるとか、または皆さんでのシェアの時間というふうにしたいと思います。

では、寺澤委員、お願いできますでしょうか。

寺澤委員 寺澤です。

前回、皆さんも御参加されていたので、あえて私がこの場で何かお伝えすることは、あまりないかと思ったので、記録についてはお三方がお話くださったことを割と忠実にまとめたつもりです。どんなことを言っていたかな？みたいなときがあれば、これを見直してもらえれば、こんなことだったというのも皆さんが思い出せるようにはなっているかと思います。

お三方ともすごい熱意があって、かつ楽しみにやっていたらというものが第一印象です。何事も続けるためには、楽しいというのは大切ですよね。なので、それが体現されている方々だったなというふうに感じております。

最後にもお伺いしたんですけれども、横山委員にお願いをしたときには、健康というのがポイントだと私は思っていたんですけれど、お三方とも、いや、そんなことは考えていなかったという、ちょっと残念な回答ではありました。が、Aの方が繰り返しおっしゃっていた、スポーツをやめてからしばらくたって、何かやらなきゃというふうに思っていたというのは、何か健康的なものだったりとか、多分シルバー学習会とか子育て短歌とかも、全てに通じるのかなと思ったんですけれど、みんな健康で健やかに今後生活していくために、何かを始めたい。それが健康というだけじゃなくて、スポーツだったり、それこそコミュニケーションづくり、社会、誰かとの関係性を広げるだったりとか、短歌ももちろん文化的な視野を広げるという意味でも、健康的で健やかな生活を送るというために、皆さん何かを続けたい。

ただ、続くものをどうやって見つけるかというのが、それぞれ違っているんだと感じました。なので、年代も関係ないし、興味の方向性も関係ないし、それぞれがとにかく自分が楽しんで続けられるものというのが見つけられるような何かを、ここで提案していければいいのかなと感じました。

以上、こんな簡単でよろしいでしょうか。

生島議長　ありがとうございます。

今、本当に健やかに楽しく暮らしていくために、学びというのに関わっているという視点が、まさに今一つここに入っていくようなものになるかなというふうには思っただけで伺っておりました。ずっとお三方のお話を伺っていても、やっぱりそこら辺は共通することだったんじゃないかなというふうに思います。ありがとうございました。

せっかくですので、ぜひ皆さん方からも、御感想ですとか、今みたいな、寺澤委員からあったような、改めて振り返ってみて、お聞きしたことを通じてこんなことを受け止めた、またはこんなことが一つの視点として答申に反映されていくんじゃないか、それから、そういうようなことが実現できるためには、もっとこういうことが必要なんじゃないかというふうに感じたというようなことがありましたら、ぜひ今日、今ここでシェアをしていきたいと思いますし、そういうようなことを積み重ねていくことによって、この後の2つも含めて、答申のところにひもづけていきたいなというふうに思っております。

皆さん方、いかがでしょうか。どちらからでもよろしいですので、御発言いただければというふうに思います。

堀委員　じゃあ、はい。

生島議長　堀委員、お願いいたします。

堀委員　本当に楽しくやっという感じがしました。楽しくやっておられ、健康づくりを意識してというよりは、続けることで結果的に恐らく心身ともに健康な状態が維持されるようなサークルが続いているのだろうなと思いました。

以下、わざと無いものねだり的なことを言います。

まず、うまく続いておりますサークルだな、その基盤には立川市には町ごとに会があり、競争したり刺激し合ったりしている。言わば、あらためて地域で非常に盛んな活動だなと思いました。

諮問に関わることですが、学校や塾やお稽古ごとは、知識や技術の内容を学んだり習得したりするには、お金を払えばほかはあまり気になくていい。けれど大人の学びというのはそれだけではなく、人間関係の中で刺激し合ったり啓発し合ったり、あるいはサークルを維持することに苦勞されたりもする。そういうこと自体が学びであるだろう。

学校の学びと違った大人の学びというのは、知識・技術を学ぶだけではない。グループ内で御苦勞することの中での学びということがあろうと思う。そのところでは、市内に多くの会が盛んに活動されているようで、どうやって部員集めをするかというような御苦勞はされていないようでした。屈託なく学んでおられる、続けておられるという感じがしました。

公民館や市役所がお膳立てしたわけではない、住民が自主的にやっている活動を取材できることになったのは貴重な機会だと思っていました。しかし想像していたような、会員募集や運営上の御苦勞とか、苦勞もあるがやっというよ

かったなというような、そんな話が全くなかったのが、意外でもあり印象に残ったという感じです。

サークル活動の取材なら聞けるかなと思っていたことが、全然、お隠しになっているというのではなく、屈託ない感じで続いている団体だなと。いろんな世代の方、若い方も世話役も来ていただいてよかったです。世話役は世話役の方なりの御苦労とか視点もあるだろうと思ったのですが、立場の違いとか視点の違いは出されず、皆さんうまく続いているというの、ちょっと意外でもあったというか、そんな感じがしました。

生島議長 ありがとうございます。

どうですか、今の御意見に対して、横山委員、よく御存じのお立場かなと。

横山委員 羽衣さんは、新しい人を勧誘する御苦労って今おっしゃっていたんですけども、それが通年化されていて、それをバックアップしてくれる羽衣体育協会というところが別にありまして、新人さんを募集したいですという、そちらのほうで動いてくださったりとかというのが、例年の流れになってしまっている、あえて自分たちが考えて募集して、募集する期間は決まっているんですけども、その期間も決まっちゃっているということで、またやりますよ、またやりますよという形で、通例化されているから、今それに関して苦労するということではなくて。まして、そこへ多分人が集まってこなかったら、また次のことを考えなきゃいけないねという学習になると思うんですけども、今の時点で、大体通常年に2回新人さんを募集しているんですが、大体五、六人の方は来ていらして、体験されて、残る方は1人、2人継続されていくかなというような母体ができてしまっている、今、部長さんがすごく御苦労されているということは、そういった面ではないのかなと思いました。

あと、部長さんは人柄が本当にいい方で、話しやすいし、自分が思ったことを言いやすい、言ったら受け止めてくれる、受け止めて返してくれるというのも、お人柄ならではの方なので。

本当にヒアリングに関して、ライフステージにおけるということになるとまた変わってきちゃうんですけども、私も今回お3人の話を聞かせてもらって、3回やってきて思ったのが、やはり承認欲求というか、自分はここにいてもいいんだよという場所である。その目的は様々だと思うんですよ、うまくなりたい人、人との交流を深めたい人、せっかくのミニテニスでいくなら試合に勝ちたい人。ただ、その中でクラブにいる一員として認められている居心地のよさというのが、続くことにつながっているんじゃないかなというのは、シルバー学習塾はちょっと私は参加できなかったんですけども、この方はお一人だったので分からないんですが、子育て短歌入門の方のお話とも、ミニテニスのお話とも、割と私は共通していることなんじゃないかなと。そういうことがしやすいことが、やっぱりライフステージにおける学習機会の充実になっていくんじゃないかなというのはすごく感じました。

生島議長 ありがとうございます。

自分がここにいてもいいという、安心できる、または承認される、そういう場というのも大事なんじゃないかということですし、あと今の堀委員からのお話にもありましたけど、あまり御苦労されずに楽しんでやっておられる姿というのが印象的だったと。でも、みんなで楽しめる雰囲気づくりというのが、皆さんでつくっているということであるとか、それが実現できるような環境、バックアップ体制とか、そういうこともあるということもどうもありそうかなというふうに思いました。ありがとうございました。

堀委員 でも、いろんな立場や世代の方が来られたのは、すごくよかったかなという気がしますね。

生島議長 そうですね。ありがとうございます。

ほかにはいかがでしょうか。

田代委員、お願いいたします。

田代委員 サークル活動というのは結構趣味みたいな部分が多くて、私なんか退職したときにいろいろやったのは、趣味というのはやらなくてよければやらないので、ある程度強制力がないとなかなか続かないという話があって。やっぱり楽しんでやっているだけだと、何となく……、あの人たちは多分何かをやっているんですよ。別に楽しいだけじゃなくて、自分の役割か何かがあって、それでやらざるを得ない部分があるので、それもあるけどやっぱり楽しいからやっているということだと思っただけですね。末端になると、今日は行きたくないなと思えば行かなくていいわけですけど、やっぱりある程度責任を負わされると、行きたくないけど行くかなみたいな、行かざるを得ないなみたいなことがないと、趣味の世界というのはなかなか長続きしないのかなと思っていて。

そういう面でいくと、楽しいからということをおの人は言っていたけど、実は裏に全然自分で意識していない強制力みたいなのでやっている部分があるんじゃないかなと思っただけで聞いていたんですが、どうもその辺がヒアリングの中で、何が駆り立てているみたいな、そんなところがちょっと見えなかったかなみたいには思いました。

生島議長 ただ楽しいじゃなくて、何か駆り立てるものがあつたんじゃないかというふうな、何か、寺澤委員、いかがですか。

寺澤委員 私、今やっている趣味があるんです。すごい下っ端なんですけど、もう楽しくてしょうがなく。でも、それはさっき横山委員がおっしゃっていた居場所として、私が行ってもいい場所だと感じられているというのももちろんあるんだなと感じます。だから、楽しいプラス、そういう行ってもいい場所だ、でもそれは全然強制とか、行かなきゃ駄目だとか、下っ端だから行かなかったから怒られるとか、そういうのでは全然なくて、すごい楽しいし、行って、もちろんうまくもなれると思うし。

お三方は、共通して言っていたのは、負けて悔しかったというのも共通していたと思うんです。だから、お三方の中では多分うまくなりたい、勝ちたいという、すごい熱い強い思いがあるなと感じたので、それは強制というよりは、自分自身の欲求なのかなというふうには感じました。

なので、趣味でも、楽しいだけでも、続くかもです。

横山委員 でも、強制という気持ちもすごく分かるんですよ。やはり自分が行かないとほかの人たちが来てくれないとか、自分が行ってやることを伝えないと、その場は成り立たないとか。私は国立の一番上というか、会長をやっているんで、むしろ私が楽しんでやることで、皆さんも楽しんでやってもらえる。そのためにはやっぱり自分も行かなきゃ、気分的に今日は行きたくないなと思っただけで、今日は寝ていたいなと思っただけで、無理やり行くことで、自分も行ったら楽しんじゃう。だから、最初は強制的な意味もあるかもしれないけれども、それがやっぱり自分の楽しみにつながって行って、来ると、みんな見て、来て、協会の皆さんの顔を拝見して、そうすると自分もほっとするというか、楽しもう

という気持ちになるので、一概に強制力というのも、私は、なくてもというだけじゃなくて、それがきっかけとして楽しむことができるかなという部分はあります。

生島議長　ありがとうございます。
根岸委員、お願いします。

根岸委員　今の話は、やっぱり立場によってみんな違うわけです。

寺澤委員　下っ端と、上と。

根岸委員　下っ端は楽しいだけなんです。何をやっても上達するし、一番楽しいと思うんですね。それがトップになると、やっぱりそこはちょっと違いますよね。

寺澤委員　違いますね。

根岸委員　今、横山委員が言ったように、彼女と私、一緒にやっていますので、私は全然そういう強制力もなく、行きたいときに行って楽しんでいるだけですけど、彼女の場合は、常にその日の練習の内容を考えたり、そういうプレッシャーの中でやっているんですよ。でも、来れば来たで、好きなので楽しんでいますけれど、それまでは結構大変だと思います。

生島議長　ありがとうございます。

非常に面白い視点であり、面白いディスカッションだなというふうに思っただけですけども、そういう、学習論としては正統的周辺参加というか、状況的に自分が一員になっていく学びというふうなものもありますし、もう一つは、強制力という言い方とはもしかしたらちょっと違うかもしれないですけど、それなりの役割、それぞれの役割がある。だから、下っ端というふうなことはあれですけど、フォロアーとしての役割であったりだとか、中堅どころとしての役割とか、メンバーとしての役割ということがあることが、一員として関わっていく、みんなで主体的に盛り上げていこうということになっていくということなのかなというふうに、ひいてはそれが、実は先ほどお話があった、承認される、一員として認められるということにもつながるのかなというふうに思っていました。

そういうふうな視点が出てきた、そしてまた、それはもしかすると、段階というか、スケールもあるのかなというふうにも思いましたので、ぜひ大事にこれから持っていきたい視点かなというふうに思います。ありがとうございます。

ほかにいかがでしょうか。今の観点とはまた別の視点でもいいかなというふうに思いますが、いかがでしょうか。

小畑委員、お願いいたします。

小畑委員　本当に出会うものって様々ですし、人との出会いもそれぞれ違う。それに、この間の3人の方も最初から楽しかったわけではないかもしれない。やっていくうちにどんどんどんどん楽しくなったと。もう一つ言えるとしたら、好きになっていくという過程もやっぱりすごくあったのではないかなと。それが例えば勝つことによって育まれる部分もあるでしょう。そうじゃなくても、人と話をしながら、和気あいあいとやっていることをすごく大事にしようとなったとか。本当にどれに絞るとするのがすごくやっぱり難しいことじゃないかと思えます。

私も好きなものがあって、ずっと続けてきました。小学生の頃からだからすごく長く続けてきました。先ほどあった役割を担うとか、自分が好きだから、楽しくやるとか。だとすると、それを続けていくことの根本の部分は何なのかというのが、正直、何かとは、はっきりは言えない。

この間聞きたかった、スポーツをやっていなかったら、やっていましたか？どうですかと聞いたのは、実はそこで、経験しているとかしないとかというところの作用ってどれぐらいあるのかなと思いました。全然想像できないとおっしゃっていたので、やっぱりやっていたということが大きかったのかなと感じました。

私は音楽が好きですが、小学校の4年生までの音楽はものすごく成績が悪かった。5年生になってから、音楽に出合ったとたんに成績がよくなったわけです。そこからはまってしまった。はまっていて、結局大人になっても続けましたし、今も片手間ではありますが、やったりしている訳です。そこに段階があるから、どこか出会いがあるからやっているという訳じゃなくやる人もいる。

例えば、長崎に行った経験が自分事になってつながっていくのがある、また小さい頃に何か経験をしたということが、この間でいえばスポーツをやっていたということが、そのままつながったという、何かそういう最初のきっかけとか、縁というか、それはすごく大きいことではないかなと思いました。

今の皆さんの話を聞きながら、様々思いながら、ただ答えは、なかなかはっきりとは出せない問題ではあるのかなと思います。

生島議長 ありがとうございます。非常にロングスパンで見ていただいて、しかも今回のライフステージに応じたということですけど、学習がどういうきっかけで始まるのかといったときに、実はそこにも水脈として経験というのがあるんじゃないかというふうなお話がありました。

次回の子ども・若者世代の学びというのが、入り口に位置づくことになるのかも、そういうヒントが得られるかもしれないと思いましたけれども、今回、少しこれからの視点で考えると、そういう様々な学習の入り口があるきっかけになるような、何かきっかけがあるということが、実はこれからの学習機会の充実化に向けて期待されていくことにもなるのかなというふうに思いました。そういう経験を持てるきっかけがあるということが、何というか、種まきがされるということも必要な、期待されることとしてあるかなというふうに、今の御意見もいただきながら感じていたところです。ありがとうございます。

大森副議長、いかがでしょう。せっかくですので、皆さんからもいろいろな意見をいただきましたので。

大森委員 今日はちょっと聞き入っておりました。特に付け加えることはございません。

生島議長 ありがとうございます。

あと今、先ほど、いろいろな視点があり、ほかの視点でもあれば付け加えていただければというふうに思いますが、いかがですか。

堀委員、お願いいたします。

堀委員 3人同時にヒアリングできたのはすごくよかったと思います。

あなたの体験はどうかと一人だけに聞くのと違って、あるいは同じ活動をしていても、個別に聞くのではなく、一緒に来ていただいて、世代も経験年数も違う方々から同時に聞くことができ、質問に誰かが答えれば、それをほかの方も

聞いている。今のお話は、ほかの方はどうですかみたいなことも伺える。それができた中から出てきた感想が、今の話だと思います。複数の方に聞けて非常によかった感じがしました。

生島議長 ありがとうございます。

形式としては、子育て世代の、子育て短歌入門のときも同じような、サークルの中で、皆さんでお互い意見供給をしながら聞くという話でしたけれども、堀委員に同席していただいたシルバー学習室のときにはお一人だけだったので、確かにそういうふうなこともあったのかなというふうに思います。ありがとうございます。

この後、具体的な説明がありますけれども、次回7月1日に予定されております長崎派遣平和事業とか、グローバルカフェ、これも連続して出られている方々にヒアリングをする形になっているんですけれども、やはり同席していただくことにはなりますが、微妙に経験が違うというのもあって、今2人ですので、ぜひその辺もまた違いを含めながらお話を聞いていただければいいのかなというふうに思いました。詳細については、また後ほど事務のほうから御説明いただくようにしたいと思います。

ちょっと先走ってしまいましたが、ミニテニスのヒアリングにつきまして、あと補足で何か、皆さん方で、ここもちょっと言っておきたいというようなことがあれば伺えればと思いますが、いかがでしょうか。よろしそうですか。

今までの実態から少し見えてきたポイントというところで出てくるところもあったかと思いますが、それだけではない視点、今ここにはまだ記載していないけれども、出てきたポイントもあったかなというふうに思います。そういうものも含めて、今後の答申づくりに反映していきたいと思います。

この後、2つの団体であるとか、団体というか、学習者にお話を伺う形になりますけど、少しこれも頭に浮かべながらヒアリングしていただくと、よりこの後の議論につながりやすいかなというふうに思いますので、どうぞよろしくお願いいたします。

ここまで、よろしいでしょうか。よろしそうですか。ありがとうございます。

では、この後、まだヒアリングが2か所、2回のヒアリングがありますし、特にこの後、近々に迫っています長崎派遣事業等の若者世代のことにつきましては、事務局より少し詳細な説明をいただくことになりますので、今日のところはここまでにしたいと思います。

では、次第3に入りたいと思います。

次第3は、7月1日水曜日にヒアリング予定をしております子ども・若者事業についてです。このことにつきまして、事務局より御説明をお願いいたします。

事務局 事務局です。資料4を御覧ください。

まず、国立市児童青少年課主催の2つの子ども事業について、説明させていただきます。

1つ目は、子ども長崎派遣平和事業です。この事業は、国立市の小学校6年生16名を長崎市に派遣し、原爆資料館、被爆建造物等の見学、風土の学習、また現地青少年との交流により相互理解を深め、平和の尊さと歴史を学ぶことを目的としています。8月に2泊3日で長崎に行くのと、6月から8月にほかで7回集まる機会があり、説明会、事前研修、出発式、事後研修、報告会を行います。

本日、皆様に2025年の国立市子ども長崎派遣平和事業報告書の冊子をお配りしております。こちらに研修内容や報告会の様子、児童の作文が書かれて

おりますので、お時間のあるときにお読みください。

続いて、2つ目です。2つ目は、グローバルカフェです。この事業は世界を舞台に活躍するグローバル人材の「裾野を広げる」ことを目的に、気軽に海外文化や言語に触れられる機会を提供し、多文化共生の視点で国際人としての行動ができる青少年を育成します。対象は、国立市内在住・在学の中学生と高校生で、実施は全6回となりますが、毎回募集をかけて、定員は15名です。内容としては、一橋大学留学生との交流や、英語を活用するゲームや遊びのほか、将来の夢を現実的に想像し、進路意識・職業意識につなげるために、留学体験や実際に海外で活躍していた人の話を聞く機会を提供しています。全6回のうち、第6回は国際機関訪問企画の事前学習を行い、3月末頃、国際機関に訪問するようになっていきます。

お手元の資料5を御用意ください。資料5の3枚目に、令和8年度グローバルカフェの概要や実施日程などが書かれています。その裏面に、今年度行う第1回から第6回の予定、そして4枚目には、昨年度行われた第3回のグローバルカフェの様子と、4枚目の裏面は、去年行われた国際訪問企画の国連大学訪問のチラシとなっております。

次に、ヒアリング対象者の説明をさせていただきます。

再び資料4をお手元に御用意ください。資料4の1枚目の裏面を御覧ください。今回、ヒアリングを行う対象者は2名となります。資料4を御覧いただきながら、資料5も時々御覧いただきますので、横に御用意ください。

まず、1人目が、中学校2年生の女子になります。この方は、長崎派遣平和事業は令和6年度に参加しています。

詳しい内容は、資料5の1枚目の表面を御覧いただいて、そちらが令和6年度の事業報告書となっております。その中の★2に国立市青少年国内交流事業の実施と書かれておりまして、さらにその裏面にも、報告会という表のところまで続いております。

続きまして、資料4のまた裏面の方に戻りまして、対象者1人目の中学2年生の女子ですが、グローバルカフェについては、令和7年度の1年間を通して複数参加しており、国際機関訪問企画にも参加しています。

詳しい内容は、資料5の2枚目の裏面を御覧ください。こちらが令和7年度事務報告書となっております。★3のグローバルカフェの開催に書かれております。

続いて、ヒアリング対象2人目です。このまま資料4の裏面を御覧ください。高校2年生の男子となっております。長崎派遣平和事業は、令和3年度に参加しています。令和3年度の長崎派遣平和事業ですが、新型コロナウイルスの影響により、長崎訪問は中止となっております。

資料5の2枚目の表面が、令和3年度事務報告書となっております。星1の国立市青少年国内交流事業の実施に書かれているとおり、都内や国立市内で研修を行いました。

再び資料4の裏面に戻りまして、2人目の男子ですが、グローバルカフェについては、令和4年度、5年度、6年度、7年度の第6回目の国際機関訪問企画に参加しております。行き先については、こちらに書かれているとおりです。

そして、この方は、北九州市派遣事業にも参加しております。こちらの事業は初めて皆さんに御説明しますが、令和7年8月17日に、北九州市が令和元年度から令和3年度までの長崎派遣生を対象に、戦後80周年記念平和推進事業として実施しました。市街地空襲を受けた都市（福山市・堺市・国立市・北九州市）のユース世代が、各都市の戦時下の状況や平和に向けての取り組み、または今後の発展について意見交換をしました。

ヒアリング対象者の説明は以上になります。

次に、資料４の２枚目を御覧ください。こちらは第１２回定例会で、委員の皆様が考えた質問シートとなっております。

子ども事業のヒアリングを行う日時ですが、７月１日の水曜日、１７時から１８時半です。場所は、国立市役所３階、第５会議室で行います。御参加いただける委員は、生島議長、大森副議長、小畑委員、横山委員、根岸委員の５名となります。第５会議室は、警備室近くの東出入口の階段を３階まで上っていただいて、正面の会議室になります。

また、詳細のほうはメールでお送りしますので、よろしくお願いいたします。

そして、当日、今お配りしている質問シートは御用意いたします。本日お配りした子ども事業の資料については、当日お持ちいただきますようお願いいたします。

説明は以上になります。

生島議長　ありがとうございます。

今回、７月１日はお二人の方に来ていただくということになっているんですけれども、一つは中高生でもありますので、時間も限られているということ。

それからもう一つが、今回のお二方とも、長崎派遣事業があって、その事業も経験しながら、さらにその後、ここ、別に連続している事業ではないんですけれども、偶然ながら継続してこうした事業に参加されているということで、グローバルカフェの事業がある。今回は子ども・若者世代のそれぞれの事業評価ではなくて、子ども・若者世代がどういうふうな学びの機会を得ているのか、どうして学んでいるかということを知っていくという意味で、２つの事業に展開的に関わっている方を御紹介いただいているということなんですけど、そうはいっても、２人ともかなり関わっている事業の場所が違うんですね。関わり方も違うというようなこともあって、ですので、ちょっとその辺を頭に置いてヒアリングに来ていただきたいというふうなこともあります。

御説明いただいたとおりなんですけれども、この辺りは当日に確認しているとどんどん混乱していきそうですので、事前にちょっと頭に入れておいていただければというふうに思って、今、詳細に御説明いただいております。

そういう意味では、参加の仕方から結構いろんな疑問が出てきていて、私も見させていただきながら、コロナ禍のときの経験と、そうじゃない、今、実際に派遣されてきた経験というのがどう重なり合って、またどういうふうに事業を工夫されてきたのかなということもありますし、グローバルカフェについても、片方の方は１年間の中で複数関わっていますし、もう片方の方は移動のスタディーツアーだけ関わってきているんですね。そこにも何か、それぞれの学びを選択して行っている意図がもしかするとあるかなというふうにも思います。ですので、その辺の背景を踏まえて、頭に置いておいていただいて、ヒアリングをしていただければというふうに思いました。

そして、また当日出られない方も、こういう背景の違いがある、事業への関わり方の違いがある方たちに聞くんだということで、この後の議論にもつながるかと思いますので、一緒に説明をお聞きいただいたということです。

それから、もう一つ、最後にありました対象者の２人目、高校２年生の方のほうですけれども、北九州市の派遣事業というのもあります。これは今回初めて説明されるということですのでけれども、ただこのことについては、今回のヒアリングの中でももしかすると触れられるかもしれないので、情報としてはまず皆さんに、今日、御説明をお願いしていました。ただ、ヒアリングの具体的な趣旨としては、この事業は対象にはなっていないんだとは思っています。というのも、どちらかというと、これ、本人が選択して行ったというよりは、ピンポイントで経験者の中から選ばれて行った、選抜されて行ったというようなことになる

うかとも思いますので、ちょっとここは、もしかすると御本人が触れられるかもしれないんですけども、そこら辺も頭に入れながら、もしかするとここでの学びというのも大きかったとが何か触れられていくかもしれないですけども、入り口としましては、ここが入り口であったわけではないということだけ、共通認識をつくっていただければというふうに思います。

ちょっと補足させていただきましたけれども、ここまで、次回のヒアリングの対象者であるとか、または次回のヒアリングの前に確認しておきたいことということがありましたら、皆さんで話し合っておきたいと思いますが、いかがでしょうか。

大森委員 ちょっとよろしいですか。

生島議長 大森副議長、お願いいたします。

大森委員 大森です。これ、今、御回答くださいということではなくて、当日までに整理をいただけたらと思うんですが、事業評価ではもちろんないんですけども、2つの事業についての経験を教えてもらうということになるので、インタビューの構造として、まず長崎事業についてお二人に聞くのか、あるいはお一人ずつにそれぞれ併せて聞いていくのか、そこら辺の枠組みをちょっと当日までに整理していただきたいと思います。

生島議長 ありがとうございます。本当におっしゃるとおりかなというふうに思っております。これは、私が進める、投げかけるということですよ。

大森委員 当日までに整理ができれば。

生島議長 ありがとうございます。おっしゃるように、2枚目にヒアリングシートがありましたけど、実際にも、このことについては事前にも、今回の会議の打合せのときにも事務局ともちょっと話をしていて、やっぱり一つ一つ聞いていくよりは、少しまとまりでお一人ずつ聞いたほうがいいかもしれないねというふうな話はしておりました。私の中でも少し整理をしておきたいと思います。ありがとうございます。

ほかにはいかがでしょうか、何か。

田代委員、お願いします。

田代委員 いろんな事業に出られているわけですけど、最初に行ってステップアップしていったのか、それとも最初からこういう意識があってそれで選んで行ったのか、その辺がよく分からないので、それをちょっと聞いてもらえればと思います。

生島議長 ありがとうございます。当日、田代委員はいらっしゃらないので。

田代委員 すみません。

生島議長 いえいえ。ぜひその辺も確認しておきたいと思います。ありがとうございます。

今みたいな御質問がありましたら、ぜひこのことを聞いておいてというようなことがありましたら、伺っておきたいと思います。

堀委員、お願いいたします。

堀委員 いろんな市でこのような市内学生の派遣事業があると思いますが、最近の選抜の仕方がよく分からないので伺いたいです。

特に小学生などだと、学校から誰か推薦して出してくれないかみたいな形で、推薦され選ばれて出ているようなことなのか、それとも、誰でもいいから希望者は自分で応募しませんかというふうな形で募集されているのか。保護者の了解のもとに、基本的にはそれぞれの対象の子供たちが、自分で手を挙げて応募し、応募者の中から選んだという仕組みなのか。

誰が来たって学びは学びと思いますが、どういうことで彼ら彼女らが選ばれ事業を体験し、ヒアリングの対象にもなっていくのかを教えてください。

生島議長 ありがとうございます。事業について、そもそも多分事業の設定とか、広報の仕方にもあると思います。その辺は既に事務局が知っていらっしゃるかと思いますので、お願いします。

事務局 では、事務局です。今の回答なんですけれども、大体5月の下旬から6月の上旬ぐらいにかけて、国立市のホームページだったり、あとは児童青少年課のほうでチラシのほうを作成しておりまして、こちらの様な感じなんですけれども、このような形で応募を募っております。その応募者の中から、選考の方法なんですけれども、定員を超えた場合、16名が定員なんですけれども、それを超えた場合は、学校、学区域、男女比を配慮し、子ども家庭部長による抽選を経て、市長が決定するという事になっております。

説明は以上になります。

生島議長 ありがとうございます。たしかこれ、記憶では、そうはいつでも選抜にここ数年はなっていなかったの。

事務局 そうです。

生島議長 別に選抜された人でもないという話があったようにも記憶しているんですけれども。

事務局 昨年度は16名ぴったりでいくことができたので、ちょっと今年度のほうはまだ情報のほうはいただいてないので、はっきりしたことはお伝えできないんですけれども、昨年度はそういった形になっております。

生島議長 昨年度じゃない、今回お聞きする方が令和6年度ですから、一昨年度ですよ。一昨年度がどうだったかということもあろうかと思いますが、今度、実際のヒアリング当日に、御本人の中から、どのようにしてこの活動を知りましたかとか、どうしてこの活動に参加したいと思いましたかということはお聞きすることになっていきますので、そういう意味では、今の堀委員からの御質問というところで、確認ができるかなというふうに思います。

堀委員 分かりました。

生島議長 ありがとうございます。

ほかにはいかがでしょうか。よろしそうですね。では、このような形です。

あと、7月1日、5時からということなんですけれども、当日御出席いただける方々、当日のことについてはよろしいですか。

では、このように進めていきたいと思いますので、どうぞよろしくお願いいたしますします。

それで、今回ヒアリングの記録、まとめ係というのを決めていきたいと思います。それで、先ほど大森委員からもお話があったんですが、やはり事業の評価、評価というか、事業のことについて聞くというよりは、個人の学習のプロセスのことについて聞くことになろうかと思いますので、例えばまとめ方も、どちらかというところそれぞれで、一問一答で書いてもらう、まとめてもらうよりは、この方はどうだった、こっちの方はこうだったというふうなことのほうがまとめやすいんじゃないかなというふうに、後の議論にもしやすいのかなというふうには思っていました。そういう意味で、例えば場合によってはお二方をお願いして、どちらかの方、どちらかの方ということで、分担してやっていただくということもあり得るかなというふうに思っていたんですけども、ぜひ分担してお願いできればというふうに思っています。

御参加いただける方ではないとお願いができないんですけども、例えば、ちょっと名指しで申し訳ないんですが、今までやっていらっしゃらない方として、小畑委員と根岸委員にお願いできないでしょうかというふうに言っているんですけども。

小畑委員 記録ですよ。

生島議長 はい、記録を。

根岸委員 はい、分かりました。

生島議長 どちらかがどちらかというふうなやり方がいいかなと思うんですが。

根岸委員 でも、構いません。

生島議長 どっちでも。では、どちらがいいと、じゃあこちらで決めたほうがいいですかね。

小畑委員 そうですね。

生島議長 そうしましたら、ふだんの小学校のところの年代が近いところで、中学生の方を小畑委員にお願いして、根岸委員に高校生のほうをお願いできればというふうに思います。

根岸委員 分かりました。

生島議長 ぜひよろしくお願いいたします。

では、よろしいでしょうか。

では、ちょっと今日は速やかに、まだこの後もあるということで、スムーズにここまで来させていただきましたけれども、次第4の事務局からの連絡事項に入りたいと思います。

事務局からお願いいたします。

事務局 事務局です。次回の定例会についての連絡です。第15回定例会を行う日は、7月22日水曜日です。午後7時からとなっております。場所は、国立市役所会議室棟さくらのへや・うめのへや、こちらです、で行いますので、よろしく

お願いいたします。

また、7月1日に行うヒアリングのほうもよろしくお願いいたします。場所のほうは、先ほど申し上げたとおり、国立市役所の3階、第5会議室となりますので、よろしくお願いいたします。

以上となります。

生島議長 ありがとうございます。

もう一つのヒアリング日程って、決まっていたんでしたっけ。

事務局 まだ調整中ですので、また御連絡いたします。

生島議長 まだ調整中。場合によってはこの日に入るということもあり得ますか、7月22日に。

事務局 それはないと思います。

生島議長 ないですか。では、この後、まだ日程が確認されると。

事務局 そうですね。多分この先の日程で調整したいと思います。

生島議長 分かりました。そうしましたら、その日程についても、もしかするとこの間、事務局のほうから皆さん方のところに御連絡があるかもしれないですけども、御対応いただけますようお願いいたします。

そのほか、委員の方々から何か御質問や情報共有などありますでしょうか。よろしそうですか。

では、ちょっと今日は早いですけれども、本日予定していました案件は全て終わりました。

次回は、まずはヒアリングが7月1日、そして会議自体は7月の22日となっております。午後7時から国立市役所の会議室、こちらの会議室で行いますので、どうぞよろしくお願いいたします。

これをもちまして、本日の会議を終了いたします。皆さん、お疲れさまでございました。

—— 了 ——